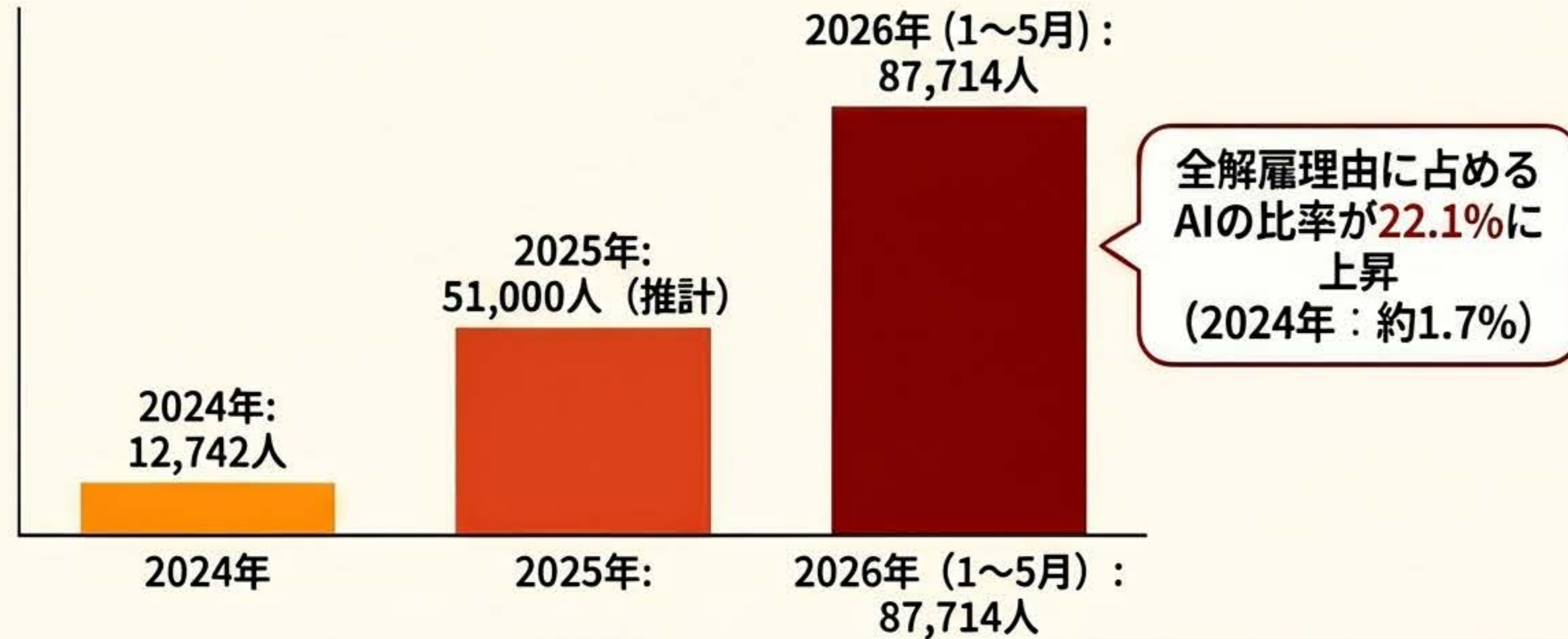


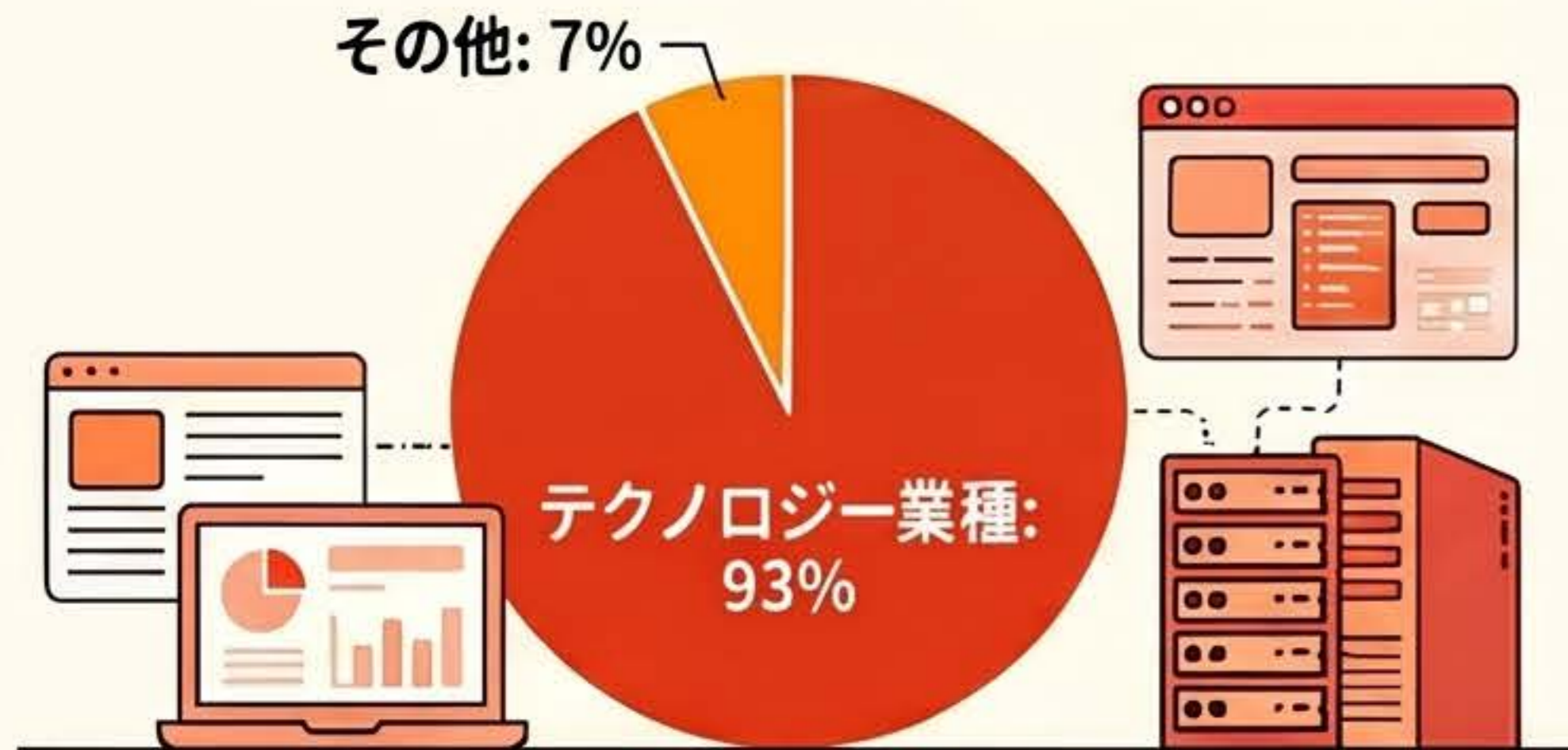
AI時代の雇用再編：米国と日本における人員削減の現状と予測（2024-2026）

米国の現状：顕在化する「AIリストラ」の急増

2026年、AI理由の解雇計画が急加速



削減の93%がテクノロジー業種に集中



職種別の明暗：AIに「代替される仕事」と「求められる仕事」

削減の2つのパターン：直接代替型 vs 資源再配分型

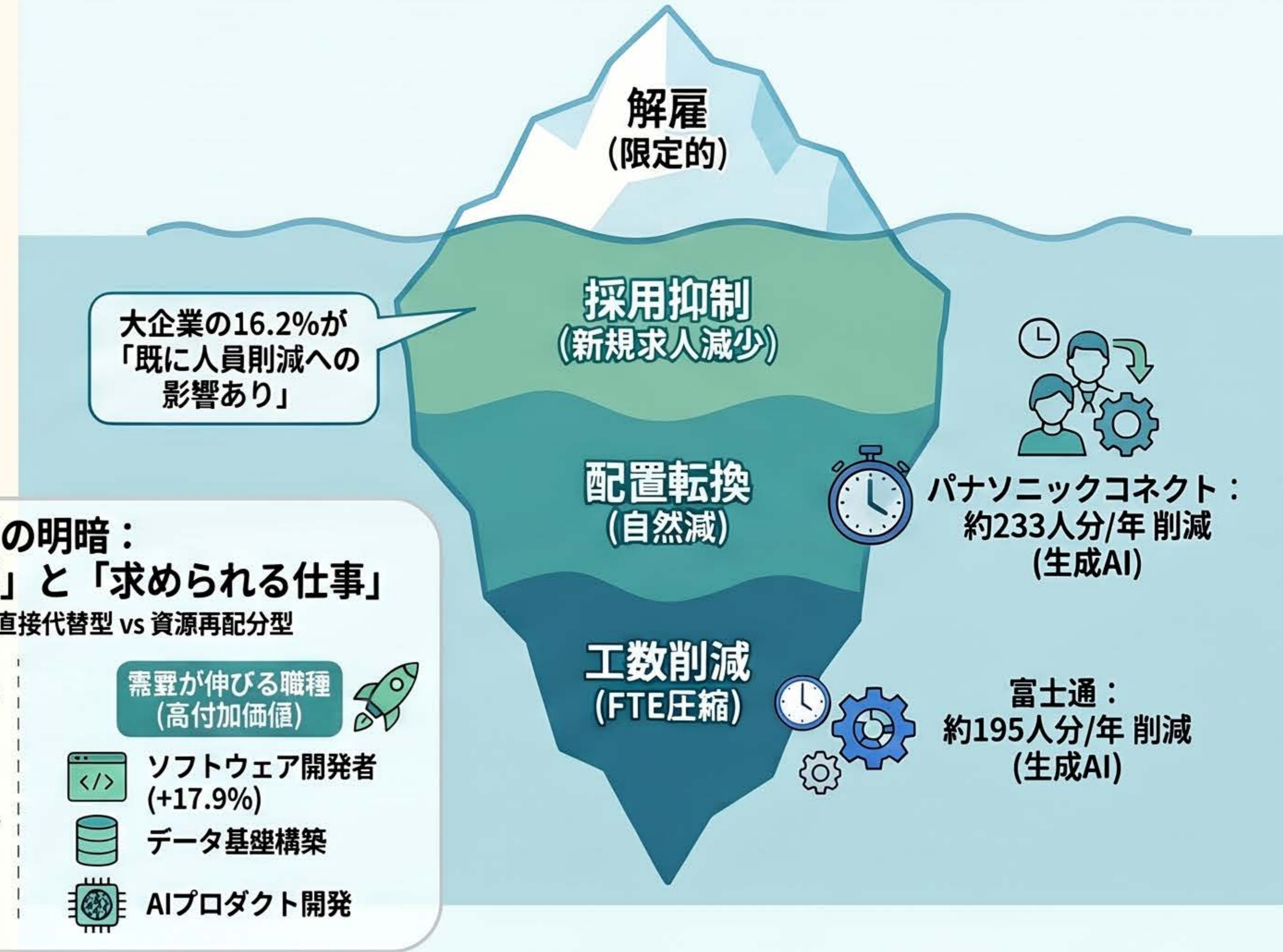
圧力を受ける職種 (代替)

- 保険金査定 (-4.4%)
- クレジットアナリスト (-3.9%)
- 人事の定型業務 (IBM事例)

需要が伸びる職種 (高付加価値)

- ソフトウェア開発者 (+17.9%)
- データ基盤構築
- AIプロダクト開発

日本の現状：表面化しにくい「静かなる再編」



将来予測シナリオ (中立シナリオ)



短期 (1年): 米国のレイオフ継続と日本の採用抑制



中期 (3年): 若手ホワイトカラーへの影響 (新卒・若手の採用枠縮小)



長期 (5~10年): 職務の完全な育定義 (再訓練・再配置へ)

勝負は「解雇の有無」ではなく、労働力をどれだけ高付加価値な仕事へ「再訓練・再配置」できるかに移る。